

全体テーマ:地域を生きる			
第1部 地域学をつくる			
1回	4月12日	①オリエンテーション ②地域学とは何か	①コーディネーター ②藤井正(地域学部長)
2回	4月19日	今なぜ地域なのか	柳原邦光(地域文化)
3回	4月26日	自然環境から地域を問う	中原計(地域環境)
4回	5月10日	人の移動から地域を問う	児島明(地域教育)
5回	5月17日	命と暮らしから地域を問う	竹川俊夫(地域政策)
6回	5月24日	生業・生活統合型多世代共創コミュニティモデルの開発	家中茂(地域政策)＋智頭のキーパーソン
7回	5月31日	山陰地方の地域産業基盤システムの確立	田村純一(地域環境)＋岸本覚(地域文化)
8回	6月7日	中間まとめ・ディスカッション	コーディネーター・学科担当教員

【第1回レポート(6月14日講義終了時提出)】課題:「地域学とは何か」

- ・1～8回の講義を振り返るとともに、テキスト『地域学入門』を読んで、「地域」を学ぶ意義や、「地域学」の基本的な考え方、研究・実践における特徴等を整理しつつ、改めて「地域学とは何か」を考察しなさい。
- ・テキスト『地域学入門』の他にも1冊以上文献を読んでレポートに活かすこと(レポートの末尾に必ず参考文献・URLを記載のこと)。
- ・A4横書2枚以内で両面印刷にて提出のこと(40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載)。

第2部 地域で生きる場をつくる			
9回	6月14日	ガイダンス(グループ分けと作業課題の説明) ◆第1回レポート提出	コーディネーター・学科担当教員
10回	6月21日	地域で働くを決める5つのターニングポイント	藤井裕也(特定非営利活動法人山村エンタープライズ代表・鳥取大学非常勤講師)
11回	6月28日	油津商店街再生への挑戦(仮題) ◆分科会企画コンセプトの提出	木藤亮太(元日南市テナントミックスサポートマネージャー)＋多田
12回	7月5日	地域における看取り文化の創造(仮題)	市原美穂(特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎代表)＋竹川
13回	7月12日	地域と共に取り組む教育の魅力化(仮題)	豊田庄吾(隠岐國学習センター長)＋福田
14回	7月19日	分科会企画の作成 ◆企画書の提出	小教室にてグループ作業
15回	7月26日	企画案のプレゼンテーションと優秀企画の表彰	

【地域学研究会大会分科会の企画】

- ・学科混合のグループを編成(1グループ当たり7～8名×25前後)し、「地域学研究会大会(11月実施)」の「学生企画分科会」の内容をグループ毎に検討して「企画書」を完成させる。優れた企画案については第15回のプレゼンテーションに進出し、そのうち特に優れたものが表彰される。
- ・表彰されたグループを中心に学生分科会実行委員を組織し、11月の地域学研究会大会において分科会の企画を実現させる。
- ・企画書の提出(7月19日)に先立ち、6月28日に「企画コンセプト」を提出すること。

8月2日	第2回レポート提出締切(17時までに教務係レポートボックスへ提出)
------	-----------------------------------

【第2回レポート(8月2日17時までに教務係レポートボックスに提出)】課題:「地域で生きる場をどうつくるのか」

- ・第3部のゲスト講師による講義を振り返り、それぞれの実践の具体的なポイントを整理しながら、自分自身が将来どのような地域づくりの実践や研究に挑戦したいかを論じなさい。
- ・A4横書2枚以内で両面印刷にて提出のこと(40字×43行、最初の3行に「タイトル」「学科・学籍番号」「氏名」を記載)。おおよその分量は、表が講義の整理、裏は印象に残った実践と自分が挑戦したい実践・研究に関する論述＋参考文献やURL。
- ・企画案のプレゼンテーションで優秀企画に選出され、学生分科会実行委員を引き受けた者については、第2回レポートの提出を免除する。

◎コーディネーター／チーフ:多田(地域政策)、サブ:福田(地域教育)

◎学科担当教員／村田(政策)、畑(教育)、川井田(文化)、中原(環境)、平井(芸文)

◎TA／